最優秀賞

歌でつなぐ笑顔の輪

中央小学校五年　日比野　百花

あ！あの人、あたたかい目で見てくれてるなぁ。リズムにのって手拍子もしてくれている！

私は合唱団に入っています。その合唱団では毎年刑む所に歌を歌いに行きます。

合唱団には3才から大学4年生までのお姉さんがいて、私は4才の時に入団しました。合唱団はとっても楽しくて、私はいつもレッスンに行くのがまちどおしいです。歌を歌っていると笑顔になれるし元気になります。演そう会などで歌うと、お客さんもみんな笑顔できいてくれます。だから、合唱団のみんなと一緒に歌ったりおどったりすることがとても楽しいです。

合唱団のみんなはとてもやさしくて、小さい子はかわいくて、合唱の時にお姉さん達が面白くレッスンをしてくれるから、私はこの合唱団が大好きです。

この日、私は合唱団のみんなと刑む所で歌を歌うことになりました。合唱団では毎年ここの刑む所へいもんに行きます。私は歌いに行くことになった時、どんな感じなんだろうと不安でドキドキしたし、どうして悪いことをしてしまった人達を元気にするために歌いに行くんだろう、と思っていました。だけど、私が合唱団にいると笑顔になったり元気になるのと一緒で、刑む所にいる人達の心も元気にすることができるからなのかなと思いました。きっと心が元気になったら、「同じことをくり返さないようにしよう」「また友達や家族に会うためにがんばろう」と前向きに思

ってもらえるのかもしれないな、と思ったからです。

高いかべに囲まれた刑む所に入った時、学校とはちがって、とても静かでシーンと静まりかえっていてきんちょうしました。けいさつ官もたくさんいました。

ステージに立つと、背すじをピシッとのばして全く動かず私達を見つめる受刑者のみなさんの姿が目に入りました。前の方に座っている人達の中には歌い始める前から涙を流している人達がいてびっくりしたし、中には反対に真顔で感情がないように見える人もいました。

私はきんちょうしていましたが、歌い始めると、みんなの歌声に安心して少しずつ楽しくなっていきました。受刑者の人達を見ると、笑顔できいてくれていたり、リズムにのって手拍子をしてくれている人達もいてとても嬉しい気持ちになりました。中には大つぶの涙を流しながらじっと私達を見つめている人もいました。その様子を見て、私達の歌を通して受刑者のみなさんと歌で気持ちをつなげることができたのかなと嬉しくなりました。そして特にびっくりしたのは、曲が終わったしゅん間にとても大きな拍手をもらったことです。会場中に拍手の音がひびきわたってとても嬉しかったです。

歌い終わった時会場を見わたすと、涙を流している人がたくさんいました。最初は真顔で感情がないように見えた人も、少し表情がやわらかくなっていて、少し元気になってくれたのかなと思いました。たい場する時には笑顔で手をふってくれる人もいてホッとしたし、嬉しい気持ちになりました。そして、悪いことをして刑む所にいるけど、ふつうのやさしい人なんだなと感じました。

後日、感謝の手紙がとどきました。そこには、「みなさ

んの元気のよい歌声をききながら涙があふれてばかりいました」「みなさんの一生けんめいな姿にはげまされました」「一日でも早くむすめに会えるようにがんばろうと思います」など、あたたかい言葉がたくさん書かれていました。その手紙を読んで、行く前は不安もあってドキドキしたけど、ここで歌えて本当によかったと思いました。

悪いことをした人は反省しなければいけないけれど、これからも私達の歌で受刑者のみなさんの心を元気にして、みなさんが、「もう一度やり直そう」「はんざいをくり返さないようにしよう」と思ってもらい、社会復帰のためのお手伝いができたらいいなと思います。

これからも、きいてくれる人達の心にとどくような歌を歌って、たくさんの人と「笑顔の輪」をつなげていきたいです。